

学校教育目標	ふるさとに学び ふるさとで遊び ふるさとを愛する 鴨志田緑の子 ～ ふれあい かがやき 豊かな心 ～					
	○ 基礎的・基本的な学力を身につけ、共に学び合う力を育てます。(知) ○ 自分や人のよさを認めて共に成長する、豊かな心を育てます。(徳) ○ 健やかな心と体をつくり、命を大切に作る態度を育てます。(体) ○ 「ふるさと」を愛し、人・自然・まちと協働する力を育てます。(公) ○ 様々な人とのコミュニケーションを通じ、共生する力を育てます。(開)					
学校概要	創立 36 周年	学校長 高橋美都子	副校長 藤本光子	3 学期制	一般学級: 12	個別支援学級: 2
児童生徒数: 402 人	主な関係校: 鴨志田中学校					

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<伝え合いながら、問題解決する力> <自他の良さを認め合い 心豊かに生きる力> <人と学ぶ・人に学ぶ・自ら学ぶ力>	鴨志田中学校 鴨志田第一小学校 鴨志田緑小学校	・「あったかさ」に表される豊かな気持ち、地域を思いやる気持ちをもつ子 ・互いを認め合い、伝え合い、学び合う子 ・主体的に学習に取り組む子 ・運動に楽しく取り組み、健やかな体をはぐくもうとする子 ・リーダーシップを発揮し、貢献する子 ・小中合同授業交換会で「人と学ぶ・人に学ぶ・自ら学ぶ」を意識した授業を展開する ・小中合同人権研修で教職員の人権感覚を磨く・三校合同メンター研修を行う ・ふれあいコンサートで演奏や歌を発表したり、他校や地域の方の発表を聴いたりし、互いを認め合ったり、学び合ったりする子を育む ・児童生徒参加型学校地域防災訓練の継続的な取組により、地域に貢献できる子を育む ・児童生徒交流日で小学校6年生が中学校の授業や部活動の見学や体験をし、中学校への円滑な接続を図る

中期取組目標	○ 豊かなふれあいを大切にしながら、一人ひとりが安心して笑顔で過ごせる学校にします。 ・ 一人ひとりが自分の考えをもち、伝え合うことを通して、学び合う楽しさを実感できる授業づくりを推進します。 ・ 人とのかかわり合いの中で、互いを認め、思いを伝え合うことのできる豊かな人間関係の向上を図ります。 ・ 地域とのつながりを活かした教育活動を進める中で、ふるさとを大切に思う心を育てます。 ・ 「だれもが」「安心して」「豊かな」生活が送れるよう、丁寧な児童支援や児童指導を推進します。 ・ 教職員の連携を促進し、学校教育目標の実現に向けて活力ある組織的な取組を行います。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	子どもたちが切実感をもちながら学習に取り組むことで、学び合いながら問題を解決していく力を育む。重点研究会を中心に子どもが主体的に学び合える学習計画のあり方や子どもの思考をいかす授業のあり方を研究の視点として、関わり学び合いながら自分を高める子の育成を目指す。
豊かな心	「特別の教科 道徳」を豊かな心の育成の中核と捉え、子どもが道徳的見方・考え方を広げ、自己を深く見つめ、よりよく生きようとする力を身につけるようにする。また、各学年の実態に応じた人権教育を行い、子どもの自尊感情や自分も他の人も大切に作る心を育むことを目指す。
健やかな体	子どもたちが主体的に運動に取り組むことで、体力の向上と運動に慣れ親しむ資質・能力を育む。4月から9月は長縄、10月から3月はマラソンに取り組む。歯みがきの大切さや間食が与える歯への影響について学び、自身の生活を振り返り、基本的生活習慣の確立を目指す。
特別支援教育	個別交流委員会にて一般学級と個別支援学級の連携を深め、充実した交流学习を進める。特別支援委員会にて支援や配慮を要する児童へのニーズに応じた指導を保護者との連携のもと進める。年1回、特別支援教育や合理的配慮等に関する教職員の研修をし特別支援教育の充実をはかる。
地域連携・学校運営協議会	地域ボランティア・保護者ボランティア等の教育的資源を活用し、子どもの体験的活動や学習活動を豊かにしていく。年間4回の学校運営協議会を開催し、組織運営、地域での子どもの様子、学校の重点取組について意見を交わし、学校・家庭・地域が一体となった学校運営を目指す。
安全管理	子どもたちの安全な生活のために、安全防災マニュアルを確認し、より確かなものへと改善する。防災教育を充実させ子どもたちの防災意識を高めることを目指す。また、校内の安全管理を定期的に行うことで日々の生活の中からPDCAサイクルを機能させながら細かく改善していく。
異学年交流	学年ごとのねらいを明確にし、一人ひとりが活動の見通しをもって主体的に縦割り活動(KFT)に取り組み、達成感や満足感をもてるようにする。また、6年生によるKFTリーダー会議を行い、最上級生としての役割や責任を自覚した活動ができるようにする。
いじめへの対応	学年研やブロック研で児童一人ひとりの様子を複数の教員で客観的に把握し、心に寄り添った支援・指導を行う。また、YPプログラムを行事や授業で積極的に活用する。一部教科担任制や少人数・TTの授業を行うことで多角的な児童理解に努め、情報共有を図る。
人材育成・組織運営(働き方改革)	校内メンターチームが管理職・主幹教諭の指導のもとに若手職員とのニーズに合わせ、授業力・児童支援・保護者連携等をテーマに年間5回以上の研修を行う。教務部(ミドルリーダー)を中心に各学年・各分掌が互いに連携を図り、組織力を高める。会議の精選・効率化、業務分担・業務内容の見直しを積極的に図る。